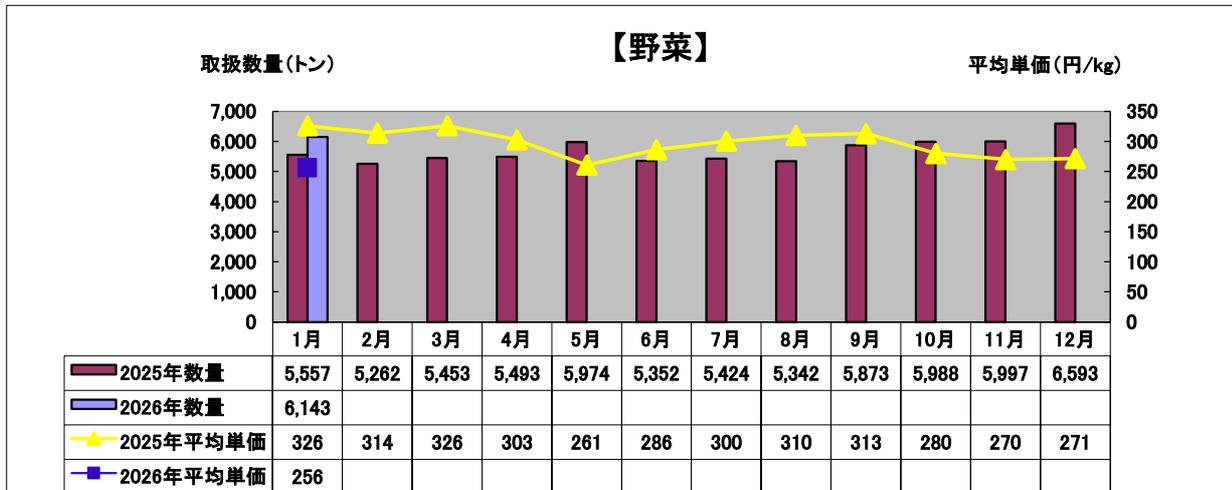
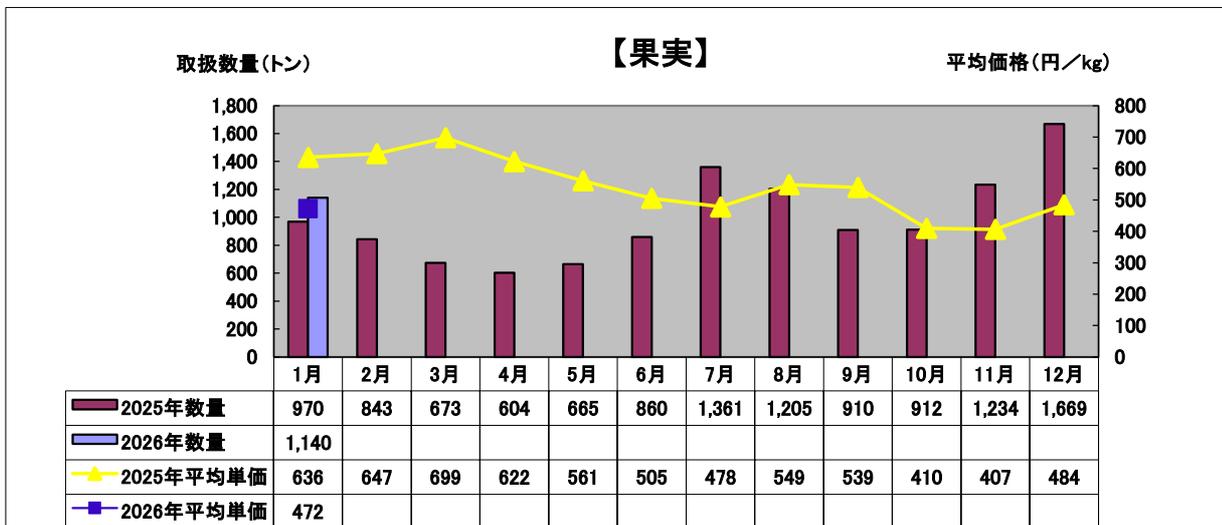


令和8年(2026年)1月 青果部種類別市況



主力品目では、大根・白菜・キャベツが前年と比べて大幅な単価安となりました。北海道産の玉ねぎ・じゃがいもは生育不良で単価高となったが、末端消費者の買い控えが続きました。西日本産は寒波の影響で出荷が出遅れるも、物価高のあおりから消費も低迷となり、野菜全体では単価・金額ともに前年を大きく下回る結果となりました。数量は増加、平均単価はかなり安く推移しました。

前年比数量 111%、平均単価 78%で終了しました。



温州みかんやいよかんなどの中柑橘類が不作の昨年度より軒並み出来が良く、産地によっては一昨年より出回り量が増えたところもありました。一方で産地からは昨年度を意識した価格要請もあり、年末在庫を抱えたまま年初となり、結果として価格は低迷しました。数量は増加、平均単価はかなり安く推移しました。

前年比数量 118%、平均単価 74%で終了しました。